

昭和48年1月13日第三種郵便認可

HSK通巻498号

発行日/2013年9月10日(毎月10日発行)

編集人/白老町手をつなぐ育成会 佐藤春光

北海道白老郡白老町字萩野 310-110

TEL (0144) 83-3537

会報/204

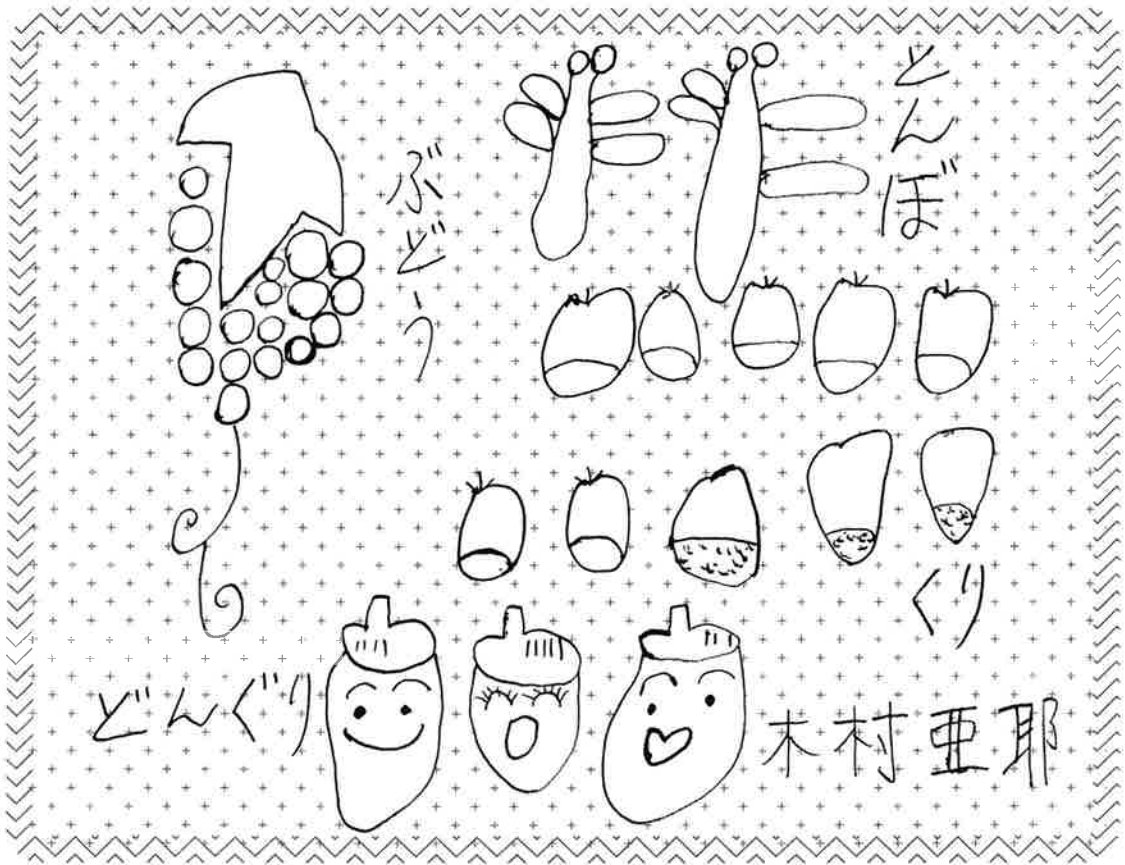
発行人/北海道障害者団体定期刊行物協会 (HSK)

定価/1部100円(会費を含む)

HSK

2013. 9月号

# ほほえみ



白老町手をつなぐ育成会

# 輪切りの思想からの脱却

めがねをかけているだけでは障がい者と言われませんが、全盲の場合障がい者と言われます。耳が少々遠くても障がい者と言われませんが、まるっきり聞こえなくなれば障がい者と言われます。年齢が上がってくると、目も耳も足も頭も体中が老化しだめになっていきます。どこから障がい者になるかは個人差がありますが、100パーセントに近い人が最後は障がいを持ってしまいます。

知能指数の平均を100という数字で表し、75以下を知的障がいとしています。120位を基準にしたならほとんどの人が知的障がいになってしまいます。ある基準を設けて輪切りにしていくと障がい者と健常者そしてどちらともとれるグレーゾーンができあがるのです。

私たちの発想を輪切りではなく、様々な空間に位置する星の様に宇宙の発想に切り替えたなら、障がい者という言い方も変わってくるような気がします。100人いたら100通りの人間がいる。そう捉える様になったなら、「学力テストワースト100の校長名を公表したい」などと言う知事もいなくなるような気がします。

## 平取養護学校保護者との懇談会

児童生徒数が減少しているのに、養護学校や高等養護学校の児童・生徒が増加傾向を示しています。しかし、白老からそのどちらに入学しても通学はできません。障がいがあれば重いほど遠くの学校に通わなくてはなりません。子どもの教育にとってそんなことが良いはずがありません。平取養護学校のお母さん方とそんな悩みを話し合いたいと思います。たくさんの方の参加を待っています。

日 時・・・10月 1日（火）

10：00～11：30

場 所・・・苫小牧市民活動センター2階研修室

内 容・・・平取養護学校の現状と今後の課題について

参 加・・・興味と関心のある方はぜひ参加してください

# 公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団 一般社団法人 函館馬主協会さんより

グループホームほのぼの荘の改築助成金（100万円）をいただきました。おかげでほのぼの荘の食堂窓ガラスのペアガラス化と壁の断熱化ができます。

目録贈呈式が函館の花びしホテルでありましたので、出席してきました。馬主さんの善意を有効に使わせていただきます。



## 尾木ママにあってきました



8月27日に厚真町で尾木直樹文化講演会があると聞き、出かけてきました。尾木さんがまだママと呼ばれていなかった頃、（お互いに現役で若かった頃）白老でも何度が講演会をお願いしました。相変わらず速い頭の回転ですばらしい講演でした。厚真町の心遣いで合わせていただいたことに感謝申し上げます。おかげで、なつかしい話もでき、フロンティアのお菓子をお土産に渡すこともできましたし、記念写真も撮っていただきました。

# 登別の新公園(?)



左の写真は登別東町のしんどうさん宅の森です。大木がうっそうと茂る森なのですがその中におお姥百合が群生していたのです。白老町でこれだけ群生している場所は日本製紙の体育館の所しかありません。フロンティアではこのおお姥百合の球根からデンプンをとってフクロウのフィナンシェというお菓子を作っているのです。

そこでフロンティアではいろいろな場所に群生地を整備しているのです。

登別で土地探しをしているとき偶然にこの場所を見つけました。現在木がうっそうと茂っていますが、草を刈って木をある程度間引きしたなら、町の中に素敵な散歩道ができると考えて、しんどうさんに自主管理を申し出たところOKしてくださいました。そこで、下の写真の様に草を刈り、転がっていた木を整理し始めました。すると近所の方が木を欲しいと言ってきたり、散歩道ができたら使わせてもらいたいという人もでてきたので、しばらくは柴田さんに頑張って草刈りをお願いすることにしました。



大地震などの災害時、難病患者や障害者は健常者以上にさまざまな問題に直面する。地震を想定したイメージ訓練を通じて対策や備えを考える研修会「大震災に学ぶ集い」(北海道難病連札幌支部主催)が7日、札幌市中

央区の北海道難病センターで開かれた。非常時に備えて薬の調達方法を検討しておくことや、避難時の手助けを頼めるように地域とつながりを持つ必要性などが話し合われた。(安藤徹)



# 難病患者や障害者 災害時の備えは

## イメージ訓練で学ぶ

酸素ボンベや車いす用バッテリー

特殊な用具も必需品



佐々木貴子教授

「集い」は一昨年の東日本大震災を受けて昨年から開催。イメージ訓練は災害時の行動を具体的に考える狙いで初めて企画した。道教大札幌校の佐々木貴子教授(防災教育)が講師を務め、さまざまな疾患や障害のある人とその家族ら約60

人が参加した。

参加者は6〜9人ずつ9つのグループに分かれて着席。夜寝ている時間帯に震度5〜6の地震が起きたことを想定し、2時間以内は何をするか、避難所に何を持っていくか、などの問いかけを受けて各自が紙に書き出し、グループごとに集約して発表した。

初動をどうするか、の回答では「火元の確認」「家族の安否確認」といった基本的なことのほか、「体が不自由で1人では動けないので家族の助けを呼ぶ」「車いすを探す」など難病患者ら特有の課題が挙がった。避難所に持って行く物は、ほとんどの方が薬やつえ、車いすなど病気と関連したものを挙げていた。住居地図に避難所や病院の位置の印を付ける参加者たち

### 佐々木教授に聞く

難病患者や障害者も自分の命は自分で守るといふ心構えを持ち、普段から備えないといけない。今回の訓練で、電動の呼吸器を使う人は発電機が必要という事情を自身初めて知った。こうした事情は普段から声を挙げない

### 避難所に行かぬ選択肢も

と行政には伝わらな  
い。災害時はすぐに避難所に行く、という考え方が一般的だが、避難所には一部の障害者に必要なベッドがないし、車いす用のトイレもない。周囲の配慮も期待できない。災害に関する情報を得ることができ、自宅の被害の程度が低くて数日間は  
寝泊まりができるなら、避難所に行かないことも検討した方がいい。災害時は公的なサービスよりも周囲の手助けの方が力になる。でも、いざとなった時にも願っても対応してもらいにくい。普段から近所の人や近隣の病院と接点を持つことが大事だ。

した必需品を第一に挙げた。「呼吸器用の予備の酸素ボンベ」「電動車いす用のバッテリー」といった特殊な用具も挙げた。次に模造紙大の札幌市内の住宅地図をテーブルの上に広げた。参加者は自宅の位置を好みに選んで印を付けた後、病院を青色、避難所を緑色、スーパー、コンビニエンスストアを茶色とそれぞれペンで印を付けた。佐々木教授は「自宅周辺の住宅地図を用意して、同じことを自宅でもしてみたい。『こんな近くに病院があったんだ』などと、いろいろな発見があるはず」と呼びかけた。

法で調達できるのか考えておかないといけない」と課題を話した。後継制帯骨化症で歩行にハンデイのある同市東区の竹中美子さん(53)は「避難所に移動する時は近所の手助けが必要と分かった。普段は個人的なことを話す機会はないけれど、話し合ってみたい」と自らに言い聞かせた。関節リウマチで両膝に人工関節を入れている同市中央区の新堀光子さん(67)は「脚が不自由なので地べたに座ることができない。避難所にいすがあるか不安だ」と話した。

### 不安や課題を再確認

参加者に訓練から得た教訓を聞いた。表皮水疱症で皮膚が日常にはかぶれる症状のある札幌市北区の宮本恵子さん(58)は「全身を覆う特殊なガーゼが毎日20枚くらい必要。災害時にどのような方

### 医療品の調達、移動時の近所の助け

## きょうされん北海道支部 2013全道大会 in さっぽろ

9月14日(土)・9月15日(日)の2日間札幌できょうされん全道大会が行われ、フロンティアからも沢山の職員と二人の所員さんと札幌に行きました。

一日目は、北方派五分楽団によるオープニングに始まり、情勢報告「どうなる障害者福祉の行方」、シンポジウム「今こそ障害者の自立とは」、歓迎交流会。

二日目は、いろいろな分科会に分かれて、それぞれ勉強させていただきました。分科会4では、フロンティアの大廻君も発表するなど、大変ためになる分科会でした。

来年は旭川で全道大会が行われる予定です。皆さん2日間お疲れ様でした。



### きょうされん全道大会に参加して 大廻眞裕

2日目の分科会4「当事者から学ぶ」についてです。

司会の細川さんが自分で決めたテーマに沿って多くの方から発言をもらいました。

「障害者の自立」特に生活介護の人々については、細川さんやすみれ会の代表の方は世の中で生きるためには「働かない」で自立するを選択があることを強調していたのに対し、フロンティアの施設長は、障害が重くても、人の役に立つ手段がひとつでもあれば働かなければならないと発言していました。まったく正反対の意見で、働くことの意味について私は深く考えさせられました。

私はなるべく障害年金や生活保護を受けずに経済的に自立して、気ままにいたいと考えています。

# フロンティア夏祭り？開催

8月17日（土曜日）フロンティアで、流しそうめんや焼き鳥・タコ焼き・綿あめ・ヨーヨーなど沢山の食べ物をお腹いっぱい食べて楽しみました。

この次はきのご採りと焼き肉をやりたい！との意見もありました。



# 静内ワークセンターみのり

9月7日（土曜日）フロンティアの所員・職員合わせて21名で静内にあるワークセンターみのり作業所とワークショップ陽だまりへ施設見学へ行ってきました。

当日白老は凄い雨降りでしたが、静内は晴天でした。

まずは、ワークセンターみのり作業所へ見学。シルク印刷（タオルに店名や住所などを印刷）の機械や印刷の説明をしていただきました。

その後、車で少し離れたワークショップ陽だまりへ昼食を兼ねて見学。

陽だまりは、パン屋さんでフロンティアとは少し違った焼きたてパンをみんなで食べて白老に帰りました。







## HSK ほほえみ

昭和48年1月13日 第三種郵便物認可  
発行日 2013年9月10日発行(毎月10日発行)  
HSK通巻番号498号  
編集人/北海道白老郡白老町字萩野310-110  
白老町手をつなぐ育成会 佐藤 春光  
TEL 0144-83-3537  
会報/204号  
発行人/北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)  
定価/1部100円(会費に含む)